

創業の視点から“働くこと”を考える

1. 収入を得る代表的な方法

- ① 就職して働き、賃金を得る。
- ② 事業を行い利益を得る(モノを販売する、サービスを提供する等)。
- ③ 不労収入を得る(利息収入、株取引、家賃収入等)。

2. 創業について

(1) 創業とはどういうことか

ひと言でいえば、「事業を始めること」。経営者になるということ。

＜経営する＝資金を集めて人材や設備に投下し利益を得る＞

どのような商売をするか&どのように働くかを自由に決められる。一方、会社員等と比べて多くの義務と責任が伴う。契約履行・納税・雇用関連など。

代表的な利点と不利な点の比較

経営者	労働者(雇用される者)
利点 <ul style="list-style-type: none">・自分のアイデアや夢を事業という形にできる。・利益の配分を自分で決められる。・時間の使い方を自分で決められる。	利点 <ul style="list-style-type: none">・賃金や社会保険といった生活保障(法律の保護)がある。・会社の資源(設備・情報・信用力・人脈)を利用して自分の知識や技術を高めることができる。
不利な点 <ul style="list-style-type: none">・収入は保障されない。倒産や生活破綻の危険がある。・雇用主として賃金支払いの義務をはじめとする労働関連法を守る義務がある。・事業の総責任者として、事業に関わる全責任を負う(ex.損害賠償責任など)	不利な点 <ul style="list-style-type: none">・会社の指揮・命令に従う義務がある(仕事を自分で決められない)。就業規則を守る義務がある。・賃金の額は会社に決定権がある。・勤務時間外であっても行動制限がある(ex.副業禁止、社内情報の守秘義務、取引先との個人的接触禁止等)。

(2) 創業の流れ

① **ビジネスアイデア** → ② **事業計画** → ③ **資金調達** → ④ **開業準備** → ⑤ **開業**

それぞれの段階で、専門知識や協力者が必要になることが多い。

- ・ 事業計画や資金の相談先として、公的団体等(商工会議所、産業振興センター、日本政策金融公庫など)に相談窓口がある。また、商工会議所や金融機関等が主催する創業セミナーで創業の流れを勉強することもできる。
- ・ 創業資金(融資)については、日本政策金融公庫や自治体の制度融資に「創業融資」があり、また各種補助金等を利用することもできる。

3. まずはアントレプレナーシップ(企業家(起業家)精神)をもってみる

経営者視点・起業家視点をもって働くことで、視野が広がる。

- ・ いま任されている仕事の意味を考えられる。組織全体の中での自分の役割がわかる。
- ・ 利益を考えて取り組める。効率を考えて動ける。
- ・ 自分がマネジメント職になったときにどうするかを考えられる→後輩指導やパートスタッフ管理に活かせる→人材育成のスキル向上。
- ・ 常に現状の課題を把握し、解決策を考える姿勢が身につく。

以上